

えぬびい! Oh!

2019 春
Vol. 71



▶2P
伝説のモチ米アラキモチとは？
～小野の感謝祭で試食してきました！～

▶3P
YaYaYa 読書会とは？
～新しい発見がたくさん！～

▶4～5P
大月班の集大成
～地域協働学部への確かな影響～

▶6～7P
NPO 法 20 年、これまでの歩みとこれから
～次の扉を開けてみよう！～

伝説のモチ米アラキモチとは! ?

この
小野の感謝祭で試食してきました!

12月23日、高知県吾川郡いの町小野^{この}という地区で感謝祭が行われました。主催はアラキモチを再生する会、アラキモチのことをもっと知ってもらうことが目的です。

■アラキモチとは

吾川郡いの町成山^{なるやま}地区・小野地区に昔から伝わるモチ米です。稲の背丈が高く茎が柔らかいことから台風などの強い風で倒れてしまう、機械での刈り取りが難しい等の理由から手間のかかる稲穂です。現在では数件の農家でしか栽培されてないため伝説のモチ米とされています。香りと匂いが良く、粘り気があるのが特徴です。そのため、煮込んだ際に型崩れせず、しばらくおいても固くなりません。

アラキモチを再生する会は、小野地区、成山地区の耕作放棄地でアラキモチ米を栽培しています。収穫したモチ米で餅つきや赤飯作りなどを行い、PR活動とともに地域の活性化を目指しています。今回の感謝祭もその一環です。

■感謝祭

10時ごろに会場の小野公民館に向かうと既に大勢の人で賑わっていました。子どもたちから年配の方まで幅広い年代が集まっていました。感謝祭は小野公民館の前で行われ、餅つきと餅を丸める体験が出来ます。私も体験したところ、杵は重くはじめは全く力が入りませんでした。周りの方

からのアドバイスもあり初めより上手につけるようになったと思います。また、餅つきの時からお米のいい香りがしていました。



▲よいしょーという掛け声とともに餅つきが行われていました。



▲公民館の中で他の方と会話しながら食べるアラキモチはとても美味しかったです。



▲会場ではアラキモチ米と野菜の販売を行っていました。

しかし餅を丸めるほうは下手くそで、周りの方にも餅に遊ばれてるねと言われてしまうほどでした。普通の餅に比べアラキモチはモチモチ、ネバネバしていることを身をもって体験できました。アラキモチは、醤油などをつけなくても、美味しくこれまでに味わったことのないモチモチ感でした。アラキモチの入ったおせんざいもいただきました。おせんざいの中に入っている餅も煮崩れしておらずしっかりとした弾力がありました。



餅つき体験を終えた後は耕作放棄地を案内していただきました。耕作放棄地は景観の悪化とイノシシ増加をもたらします。今回見せていただいた場所は10年放置されていた場所です。アラキモチではなく大根やニンニクが栽培されています。とても広く、沢山の野菜が栽培されていました。農業を使わずに育てられたそうです。

アラキモチを再生する会は、ただいまボランティア募集中です。特に一人暮らしの男性におススメのボランティアだそうです。興味を持たれた方は是非一度下記の番号にお問い合わせください。

(国際デザイン・ビューティカレッジ もうり)

YaYaYa 読書会とは？

新しい発見がたくさん！

1月19日の14時から高知こどもの図書館でYaYaYa読書会が開かれました。
今回は、読書会の体験記を書きたいと思います。

■読書会について

YaYaYa読書会は、毎月第3土曜日に高知こどもの図書館で開かれている、YA（※ヤングアダルト）本を対象にした読書会です。毎月、課題図書が一冊ありその感想や自分の考えをお茶やお菓子を食べながら話し合います。ひ孫がいるような方から学生まで幅広い世代が参加しています。

今回は、川上未映子さんの『あこがれ』という本について話し合いました。

■緊張の読書会

私は、本を読むことが好きですが、読書会には今まで参加をしたことがありませんでした。正直なところ読書会には、文学の知識がある方々が参加しているちよつと堅苦しいイメージを持っていました。私の知識では、話についていけないのではないかと、初対面の人と感想を言い合うのは気を使うなと考えていました。

しかし、参加してみると同じ本を読んでいるはずなのに一人一人の感想や印象に残ったところはバラバラで、まったく違う本を読んだようでした。年齢が違うからだけでなく、自分の子ども

もにあてはめたり、講師のお仕事をされている方は生徒にあてはめたりと境遇によっても本の印象がまったく変わりました。ある人は、涙が出るほどよかったと言い、ある人は全然読み進めることができず、最後まで読むのに苦労したと言いました。意見がまったく違うところにも驚きましたが、なにより自分の思っていることをはっきりと言いあえることに驚きました。

■最後に

参加者の「プライバシーは知らないけれど内面を知っている友人が読書会にはたくさんいる」という言葉がとても印象に残っています。本の感想を話す中でその人の内面を知ることができるとは、素敵だなと思います。

以前から興味があった、読書会に初めて参加をし、もっと早く参加しておくべきだったと後悔するほど楽しく、新しい発見がたくさんありました。現在のYaYaYa読書会には若い方が少ないです。ぜひ、若い方をはじめ大勢の方に読書会に参加してほしいと思います。

（大久保）

※ヤングアダルト本・・・図書の分類。児童書と一般書の中間にあるもの。

今後の読書会

4/20（土）『ライ麦畑でつかまえて』 J.D サリンジャー

5/18（土）『コーヒーは僕の杖』 岩野響、岩野開人、岩野久美子

『15歳のコーヒー屋さん 発達障害の僕ができることから僕にしかできないことへ』 岩野響

※どちらか好きな方を選んでください

6/15（土）『神の島のこどもたち』 中脇初枝

時間：14:00～15:30 会場：こどもの図書館 2階・会議室

中学生以上、課題本を読んだ方はどなたでもご参加いただけます。

認定 NPO 法人 高知こどもの図書館 〒780-0844 高知市永国寺 6-16

開館時間 10:00～18:00 休館日 火・木曜日 Tel 088-820-8250 Fax 088-820-8251

E-mail kochi@kodomonotosyokan.org HP <http://kodomonotosyokan.org>



▲1月のYaYaYa読書会

大月班の集大成

～地域協働学部への確かな影響～

■大月班のこれまでの活動

今回は、昨春の本誌で紹介した高知大学地域協働学部の学生グループである大月班の活動の集大成について綴っていきこうと考える。

8名(昨年は10名)の学生グループである大月班のこれまでの活動は、大きく分けて2つの柱で進めてきた。1つは、活動の協働パートナーであるNPO法人黒潮実感センター(以下…実感センター)とそのセンター長である神田優(かんだまると)に焦点を当てた※ブランディングパンフレットの作成、もう1つが、実感センターが行う環境教育事業を広げるために、実感センターと教育機関をつなぐ「海の寺子屋プロジェクト(以下…PJ)」である。また、大月班として地域で活動する上で、授業の一環として取り組んでいるという受動的な学びから能動的な学びへと意識を変えていく必要があった。そこで、地域の魅力を発信していこうという思いを込め、「FORCO(フォルコ)」という団体を設立した。

そんなFORCOは実習外で、土曜夜市や地域協働マルシェなどに出店し、活動資金の調達や地域情報誌『FORCO』を発行し、文章力や、デザイン、撮影などのスキルを身につけるなどの活動を行ってきた。



▲デザインのスキルを活かして活動を可視化した展覧会「Sailing展」

■「砂浜に水族館を作ろう！」

これは「海の寺子屋PJ」の一環として企画・実施した事業である。これまでの「海の寺子屋PJ」では、高知大学の附属幼稚園と協働して、その園児たちや保護者を対象としてイベントを行ってきた。しかし、今回は大きく一歩踏み出してみようと、昨年11月18日に香南市のヤ・シイパークにて開催された「ヤ・シイの秋祭り」の中の学生企画として実施した。これまでと違い、当日申し込みという形式をとったため、参加者を確保できる保証もなかったが、積極的なコミュニケーションや宣伝の効果もあり、10組を超える親子が参加してくれた。当日は、物部地域を拠点に活動を行う同学部1年生の実習班にも協力してもらい、運営を行った。

内容は、砂浜に描かれた巨大な海の生き物に様々な色の石で色を着けていくというものだ。この企画は学生が1から企画し、試行を重ね、本番当日まで準備を行った。1年前は、実感センターが過去に行ってきた事業を参考に企画を組み立てていたが、そうした部分もこの1年で大きく成長したといえる。



▲「砂浜に水族館を作ろう！」の様子(2018年11月18日、香南市ヤ・シイパーク)

■学習成果報告会を通して

地域協働学部では毎年2月に地域協働教育推進会議の役員や保護者、高校関係者などに1年間の学びの成果を報告する機会が設けられている。昨年末では、事務や教職員がこの企画の準備運営を行ってきた。しかし、学生の多くは、昨年末までの報告会の内容に対し、「面白くない」、「参加者の人々に伝えたいことが全然伝えられない」などといった不満を抱えていた。そこで、今年は学生が実行委員会を立ち上げ、学生主導という形で進めることとなった。

具体的な内容としては、1～3年生の各実習班によるブース発表、また、学生同士によるトークセッションだ。実行委員会の中心メンバーは大月班の学生も数名所属しており、成果報告会の企画と、大月班としてのブース作成、この2つがこの2年間を締めくくる最後の事業となった。

大月班のメンバーはこの2年間の集大成として、実感センターのブランディングや「海の寺子屋PJ」を軸に、培ってきたデザインのスキルや知識を生かして、10月からの4カ月間、ブース作成に励んだ。時には、到底実習の時間だけでは時間が足りず、夜中に集まり朝まで作業をした日もあった。そうして、完成したブースは、当日多くの参加者をはじめ、学生や教職員も思わず注目してしまうユニークなものとなった。これまで、実習という枠を超えてたくさんの活動をしてきた分、周りの学生や教員からは、「具体的に何をしているのかよくわからない」といった声をいただくこともあったが、今回はブース発表や直接的なコミュニケーションによって、

※ブランディング：共感や信頼などを通じて顧客にとっての価値を高めていくこと。



▲大月班のブース、テーマは「海の杜」



▲ブース作成に励む松下廣臣(写真手前側)と中村天星(写真奥側)

多くの人に伝えることができたと言
う。
2年間の実習の集大成として、この成果報告
会でメンバーが大きな達成感と成長を感じるこ
とができたのは間違いない。

■大月班としての収束

大月班として活動を続けてはや2年、右も左
もわからず、ただひたむきに突っ走るしかな
かった2年間の道のりは、決して順調ではな
かった。チームの中核的役割を担っていた筆者
から見ると、メンバーのモチベーション、考え
方の違い、実習に対する意識など、様々な面
において迷走し続けた時期もあった。それぞれが
良い個性を持つ反面、「個の集団」から「チーム」
になるのは容易ではなく、実習での大きな活動
や日常的なかかわりの継続によって少しずつ
チームに近づいていった。互いの個性を理解し、
認め合うことによって、一人一人が適した役割
を担い、全体の活動に集約させてきた。その手
法こそがこのチームの強みであると考ええる。

また、実習のカリキュラムで決められた協働
パートナーだけでなく、その他のステークホル
ダー(関係者)にも積極的にアプローチをかけ
ていくスタイルや、デザインのスキルを活かし
た表現物(ブランディングパンフレットや地域
情報誌『FORCO』など)の作成にも積極的
にも取り組む大月班の活動形態は、地域協働学
部に新しい風を吹かせたのではないかと考え
る。それらはもちろん、担当教員の指導があつ
てのことではあるが、それらの活動に興味を持
つ後輩たちも多く、デザインのスキルを学びた
いや情報誌を作りたいと声をかけてくる学生も
増えてきた。

筆者らが2年間かけて築き上げてきた大月班
としてのスタンスが、この終盤にかけてようや
く学部に残そうとしている。大月班とし
ての活動は、これで終止符を打つが、これまで
の活動の姿が、後輩たちの目にも頼もしく映っ
ていることを願う。

(高知大学 地域協働学部 有光七月)



▲大月班の集合写真(2019年2月9日、学習成果報告会にて)

NPO 法 20 年、これまでの歩みとこれから

～次の扉を開けてみよう！～

特定非営利活動促進法（以下 NPO 法）の施行から 20 周年の昨年、高知県内 NPO 関係者や関心のある方々が集う「こうち NPO フォーラム 2018」が、12 月 1 日（土）高知市南部健康福祉センターで開催された。

「20 年の歩みとこれから」をテーマに午前中はフリップディスカッション、昼食を NPO 屋台村の交流会で楽しんだ後、午後は「高知をもっとよくしたい」と参加者みんなでカフェのような雰囲気の世界ドカフェ手法で意見を出し合った。

午前中のフリップディスカッションでは、新田英理子特別研究員（認定 NPO 法人日本 NPO センター）をコメンテーターとして、山崎水紀夫理事（認定 NPO 法人 NPO 高知市民会議）をコーディネーターとして、県内 3 団体から、古川佳代子館長（認定 NPO 法人高知こども図書館）、真鍋大輔理事（NPO 法人 GIFT）、成瀬孝治教諭（高知商業高等学校生徒会）が登壇した。

フリップディスカッションの中で、これまでの活動を通じての思いやこれからについて、登壇者から次のような意見が出された。

■活動をやっていて

【古川さん】こども図書館として可能な子育て支援を行っているが、子どもたちが本と出会い、また安心して人とふれあい、つながることのできる場を提供できればと願っている。誰にとっても居心地の良い図

書館でありたい。

【真鍋さん】子どもを中心とした地域の居場所づくりを行っているが、子どもの居場所に来る子どもたちが、年齢や立場、価値観の違う人との出会いで成長している。少しずつ地域につながりが生まれている。

【成瀬さん】ラオスへの教育設備や教育機材の支援や交流を行っているが、生徒たちが主体的にラオスの学校建設活動と地域のニーズ調査に取り組んでくれた。結果、様々な場面で人と出会い、生徒たちの成長につながった。

いずれの団体も、活動により出会いやつながりの場を提供できて良かったと語った。



▲約 100 人が参加したフリップディスカッションの様子。20 年の歩みや課題を討議した。

高知市市民活動サポートセンター

センター長退任にあたって

田中佐和子

2015 年 4 月 1 日にセンター長に就任して 4 年目となる今年 3 月末に退職することとなりました。在職中は多くの皆さまにお世話になりました。ありがとうございました。紙面をお借りして御礼を申し上げます。

サポートセンター在職中の 4 年間で印象に残った事業など振り返ってみたいと思います。

①「公益信託高知市まちづくりファンド」

通称「まちファン」
でお馴染の事業は、2018 年度で 16 年目を迎え、この間に 159 もの事業を助成しています。しかしながらここ近年エントリー団体が減少傾向になりつつあり、運営委員さんたちと一緒に約 1 年間かけてファンドの活性化について検討を重ね、



▲(左) 高校生によるプレゼンテーションも行われました。

「まちづくりたまでコース」（3 万円助成）を 2017 年度より新設しました。このコースはまさにこれから活動を始める団体の最初の一步を応援するコースで、募集中間も 8 月から 12 月迄と長くなっており、思い立った時にすぐに活用できるコースとして創設しました。おかげ様で初年度は 2



▲「食」を通じて活動している7団体が、自慢の味を持ち寄ったNPO 屋台村の様子。参加者は、絶品の味を味わいながら交流した。

■次の扉を開けるために
 【古川さん】本を読むだけでなく、困った時に思い出してもらえ場所。人の集う場所になりたい。
 【眞鍋さん】ボランティアだけでは活動の幅に限界があり、事業化に向けた活動資金獲得や人材育成を。
 【成瀬さん】高知とラオス、両方の発展を掲げ、活動を継続する。
 各団体が、これからについて話し合う中で、NPOの社会的役割を再確認し合った。
 そして、どこで生きるかではなく、誰と生きるか。改めて「20年前に目指していたNPOの世界とは？わたしたちの地域とは？」について意見を出し合い、世界を持続可能な社会にしよう。そして、誰ひとり取り残されることのない、最も遠くに取り残されている人々にこそ第一に手が届くよう最大限の努力を行おう。と、午後のワールドカフェに向け提案した。

全国にある約53000団体のNPO法人が、活動を今後も継続するための課題を克服しようとしている。高知も全国の例にたがわず理念を大切に、強みを活かし更に発展してほしい。

(のむら)

【写真中央】西山裕輝さん▶

今後の高知をどうしていくかという話合いや、お昼には屋台村の料理をたくさん頂いて、本当に楽しかった。中でも高知県の課題を考えるワールドカフェは自分の意見を伝え、周りの意見を聞き、またそれで考えが変わったりしてたくさん考えさせられて、ほんとに贅沢な時間でした…!!



◀【左端】松下健太さん

NPO団体の貴重なお話を聞き、とても勉強になりました。屋台村のご飯もどれも絶品でした。中でも印象に残っているのはワールドカフェで、高知の抱える問題を議論していく中で、自分の意見が反映されていくことは新鮮な体験でした。

■参加者の声
 フォーラム参加者の中から、国際デザインビューティカレッジの松下健太さん、西山裕輝さんに感想を聞いた。

団体を助成することができ、次年度は既存のコースに繋げることができました。

②市民とともに防災減災を考える場の提供

南海トラフ地震対策が最重要課題になっている昨年、毎年、研修会や講演会など様々な事業を行ってきましたが、今年度は「98高知豪雨災害から20年」と題して当時を振り返り今後の地域活動に生かすシンポジウムを被害の大きかった高知市大津地区で開催しました。

パネラーに当時ボランティアセンターを運営していた方や新聞記者として取材していた方、地区住民の方々など多彩なメンバーに登壇して頂きました。中でも災害後、大津地区全体で中学生も巻き込んだ地域リハビリテーション活動が立ち上がった例が紹介され、改めて日頃の地域の繋がりと共助の大切さについて考えるきっかけとなりました。今後もこの事業を通じて一人でも多くの市民の皆さまの防災減災活動や意識啓発に繋がればと思います。

最後に、2009年度以降8年ぶりとなる「サポートセンター利用者アンケート調査」を2017・18年度と連続して行い、様々な声を直接お聞きすることができて大変有意義なものとなりました。またアンケート調査の中で、「いつも快い笑顔で迎えてくれる」「対応が明るく温かい」などお褒めの言葉を多数頂き、職員一同大変励みになりました。今後もより快適にご利用頂けるセンターであればと願います。

まちがいさがし

3つの間違いをさがしてみよう！



答えは高知市市民活動サポートセンターのホームページに掲載中。

URL : <http://www.kochi-saposen.net/>

#編集スタッフの

つぶやき



@浦井

昨年の夏から料理やお菓子作りがストレス解消法になったのに、最近は作る時間がなく逆にストレスになっている今日この頃です。



@森岡

出張での楽しみは、高知では食べられないご当地名物を食べる事。青森では、ホヤの刺身、せんべい汁、いちご煮。



@すずき

大学を卒業して引っ越すため、部屋の整理を少しずつ進めている。服も本も思い出も、4年間でたくさん増えたなあ...



@しのみや

全国行脚、寒暖の差に体が悲鳴をあげる。老いを痛切に感じるようになってきた。



@横田

年に一度の防災用品・備蓄食料を見直す時期に。住む場所も変わり家族も増えると準備するものがらりと変わったのに驚かされます。



@みやわき

節句になるとおやつを詰めて、子どもたちが山や海へ遊山した遊山箱。実家の物置から出づ。これ下げて行ってみたいな春の行楽。



@おおの

溜まりに溜まった積ん読を少しずつ減らす努力をしているところ。しかし、減ったと思ったらまた増えてる不思議(^^;;

発行 高知市市民活動サポートセンター
企画編集 認定特定非営利活動法人
NPO高知市民会議 広報部会

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
月～金/10:00～21:00 土/10:00～18:00(日・祝日は休み)

TEL : 088-820-1540 FAX : 088-820-1665

E-Mail : info@siminkaigi.org

WEB : <http://www.kochi-saposen.net/>

この冊子は再生紙を使用しています